

## VIII 久喜市立のぞみ園

### 1. 実施事業

#### (1) 定員と利用率

令和6年3月31日現在

事業名	定員	現員	平均利用率
児童発達支援	10名	12名	62.5%

### 2. 重点実施事項

#### (1) 専門的な知識や技術の習得

子どもの成長に合わせた発達を把握するために、遠城寺式・乳幼児分析的発達検査を定期的に行った。言葉の出方や物事の理解力、対人関係など、どの年齢で何ができるかというところを知識として学ぶことができた。障害特性についての知識や、関わり方の技術の習得はまだ不十分なため、今後の課題としていく。

#### (2) 幼稚園や保育園との連携・移行支援

- ア 併用をしている子どもが通う幼稚園や保育園と定期的に情報共有を行った。併用先に訪問して子どもの様子を見たり、担任教諭や保育士と情報を交換した。成長した様子や、大人数の集団の中での行動や様子について確認することができた。
- イ 隣接の保育園園児との交流は、室内で一緒に遊ぶ形での交流活動が感染症(インフルエンザ)流行にあたり実施できなかった。そのため、園庭で一緒に遊ぶ時に自然な形で関わったり、やりとりを行った。保育園の子どもの様子を見て真似をする様子が見られたり、保育園の子どもが玩具を貸してくれて「どうぞ」「ありがとう」のやりとりをするなど、園内だけではなかなかできないコミュニケーションをとることができた。

### 3. 具体的取組み

#### (1) 利用者支援

##### ア 個別支援

- (ア) 生活習慣の行い方や動作を子どもが分かりやすい方法で伝えた。子どもが興味を引くような声かけをしながら、保育士が先にやって見せたり、子どもができる部分だけをやってもらうなど工夫しながら行った。自分でやりたい、という意欲が出てきたり、一人で上手にできるようになった様子が見られた。
- (イ) 身体を楽しく動かすこと、体力をつけることをねらいにして、運動遊びを月に2回ほど行った。風船をラケットでポンポンと打ちながら歩く、など「～しながら～する」協調運動の入った遊びを楽しみながら行えた。

##### イ 集団生活に適應する力を育てる

- (ア) 特に「順番を待つ」ことを子ども達が習得できるように、どこで待つ

か、どうやって待ってあげれば良いか、いつまで待てば良いかを具体的に伝えた。運動あそびを順番に行う時に繰り返し伝え、上手に順番を守って待つことができるようになった。

- (イ) 自分の気持ちを上手く表せられない子どもには、周りに人がいない時に1対1で気持ちを聞いてみたり、おもちゃの貸し借りでのやりとりを伝えるために保育士が見本を見せてみる、などの支援を行った。子ども達だけでのやりとりはまだ難しさがあるが、やりとりの仕方を繰り返し伝えていく。

#### ウ 療育専門指導

S T、P T指導は月1回、定期的に行った。指導者と情報交換をして子どもの発達についてアドバイスをもらった。それを参考に遊びの中に取り入れ、楽しんで取り組むことができた。

#### エ 家族支援

- (ア) 送迎時、保護者に様子の報告や相談などを行った。また、毎月実施した「グループ親子登園日」を利用して保護者同士の交流を行ったり、保護者会を4月と11月に開催して意見交換を行った。保護者同士で話をする機会がなかなかないため、このような機会を今後も提供していく。
- (イ) 就学支援として、先輩保護者と就学を控えた子どもの保護者との座談会を9月に行った。学校の様子や就学までに準備しておくこと、放課後デイサービスなどの情報を得ることができたようで、保護者にとって良い機会となっていた。

### (2) 人材育成

- ア 発達支援の外部研修は日程調整がつかず、受講できなかった。埼玉県「動画で学ぶ発達障害」の動画を2回視聴した。
- イ 動画や発達障害の専門誌で学んだことの報告会を実施した。

### (3) リスク管理

- ア 11月に行った保護者会の中で、各災害時のマニュアルや安全計画についての説明、緊急時の連絡方法の確認を行った。安全計画は令和5年度に策定したもので、子どもの安全面について関心を持った保護者が多かった。
- イ 安全計画に沿って、1ヶ月に1回、子ども達が活動する場所や使用する物品の安全点検を行った。必要に応じて補修や取り替えを行い、安全に子ども達が過ごせるように努めた。
- ウ 個人情報の取扱いに関して、半年に1回、職員へ確認を行った。

### (4) 感染症防止対策

- ア 新型コロナウイルスの感染対策は、消毒、換気、マスクの着用を実施した。新型コロナウイルスが5類に移行した後、子ども達はマスクを外したり、外出体験を行うなど感染状況や体調を見ながら活動を行った。

新型コロナウイルスの罹患者はいなかった。

イ 子ども特有の感染症は、RSウイルス、溶連菌感染症の罹患者が出た。広がることはなかったが、6月～8月にかけての発熱・咳・鼻水の症状での欠席者が多かった。

## (5) 地域交流

ア 地域の関係機関との連携

(ア) 保健センター、相談支援事業所などの関係機関と連携を取り、個々の子どもの情報を共有した。また、併用先の園とは定期的に訪問や電話で連絡を取り合い、連携に努めたり、就学先の学校との情報共有も行った。

(イ) ボランティアは、定期的に月5回受け入れを行った。実習生は、1日のみの実習生を計4名受け入れた。

(ウ) 普段利用している公園のゴミ拾いを子どもと一緒に実施した。2回行った。

## (6) 事業運営（収益の向上）

ア 併用をする子どもが利用しない日を有効活用できるよう、定員より多く受け入れを行った。しかし、家庭の都合による長期の欠席や、病欠者が多かったこともあり、利用率は62.5%となってしまった。

イ 関係機関にパンフレットの配布はしているが、SNSでの発信は1回のみだった。